

東日本ユニオン よこはま

JR 東日本労働組合
横浜地方本部
発行者/ 松田 和秀
編集者/ 教育・広報部

スマートホームドア改善要求について

更なる安全を求めて安全設備、安全対策を考え取り組んでいくことは労使共通の課題であり、労使で議論し進めるべき課題です。私鉄各社はホーム上の安全を守るためにホームドアの設置に力を入れおり、JR東日本としても列車との接触事故や転落防止対策に有効なホームドアの設置は急務な課題です。

9月23日に町田駅のスマートホームドアが全面運用となりました。しかし、導入後、警報や故障による列車の遅延が出ていることや、運転士からも、停止位置の有効長が短くなったことのプレッシャーや、ホームドアの扱いで乗降に時間がかかるため、運転時分に余裕がなくなっていることなどが上げられています。車掌においても従来の基本動作にホームドア用の基本動作が混在しているため間違いのもとになりつつあります。駅では、要員はそのままホームドアの異常時対応をしなければならない等の問題点が組合員より寄せられました。要求に纏め下記の通り横浜支社に対し、12月4日に申し入れを行いました。

【申し入れ項目】

- 1、スマートホームドアを使用時の乗降扱い及びホーム上の安全確認に必要な時間を確保すること。
- 2、スマートホームドア対応の要員を確保すること。
- 3、スマートホームドアのホーム柵と車両のドア開閉を連動させること。及び運転士知らせ灯と連動させること。
- 4、スマートホームドアに異常があった際の警報音が小さくて認識しづらいので大きくすること。及び列車停止警報装置と連動させること。また、スマートホームドアの異常箇所がすぐに分かるような設備を導入すること。
- 5、スマートホームドアのタイムアウトをなくすこと。異常時、警報音が1分以上で駅の解除が必要になるが、1分待たずに異常時は何がどのようになっているのか、すぐにわかるような設備を設置すること。または、駅の放送などで状況把握ができるようにすること。
- 6、スマートホームドアの異常時、故障時には列車停止警報装置と同様の取り扱いとし、駅の対応にすること。
- 7、スマートホームドアの異常時、故障時の取り扱いマニュアルを作成し、関係社員に教育訓練を行うこと。